
当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

共同利用・共同研究課題「アジア協会設立前後のカルカッタにおける知的交流: 近世の伝統からコロニアル・エピステーメーへ (jrp000304)」2024 年度第 2 回研究会

日時：2024 年 9 月 10 日（火）16:30–18:00

場所：北海道大学札幌キャンパス 人文・社会科学総合教育研究棟 2F W205 教室、オンライン会議室

使用言語：日本語

張本研吾（AA 研/ナポリ東洋大学）「ヒンドゥー教の先駆者: Vedavādin とは何か」

張本氏の発表は、アジア協会創設メンバーの一人である H. T. コールブルックが、自らのインド思想史理解の中で「ヒンドゥー教の正統主義のチャンピオン」に位置付けた二人の学者、クマーリラ（fl. 7 世紀）とシャンカラ（fl. 8 世紀）に焦点を当て、両者が用いた「Vedavādin」という術語が指し示す対象を探ったものだった。クマーリラが属していたミーマーンサー学派とシャンカラが属していたヴェーダーンタ学派は、ともにヴェーダを主な関心事とする学派であった。クマーリラとシャンカラは、ヴェーダの権威を認め、それを擁護する立場を採るものたちを Vedavādin と呼称し、個々の学派を越えたアイデンティティの指標を明確にしようとしたことが伺える。しかし、クマーリラにとっての Vedavādin は、ヴェーダに基づく祭式行為やカルマの観念を重視する人々のことであり、シャンカラにとっての Vedavādin はブラフマニー元論を擁護する立場のことであった。両者は教義上のアイデンティティをヴェーダに基づいた真理の肯定に求めたが、何を「ヴェーダに基づいた真理」とするかで、クマーリラとシャンカラの立場は異なっていた。両者の生きていた時代から 1000 年余りの時を経て、クマーリラとシャンカラは、しかしコールブルックによってそのような思想的な立場の違いを捨象されて、「ヒンドゥー教の正統主義」の中核に据えられることになった。

（文責：小倉智史）